

令和6年1月10日（水）（R5第39号）

今年もよろしくお祈りします。

17日間の長い冬休みを経て、後期の後半が始まりました。新型コロナウイルスが5類に移行した初めての冬休みだったので、お出かけされた方も多かったのではないのでしょうか。

冬休み中には、クリスマスあり、お正月ありで子どもたちにとっても、大変有意義な時間となったことでしょう。

しかし、石川県を中心に北陸地方を襲った大きな地震は正月気分を吹き飛ばすものでした。そして2日には羽田空港での飛行機事故があり、テレビを通じて燃え上がる旅客機を見ると心が震えてきました。私は千葉に40年以上住んでいるので、お正月は「晴れて穏やかな日が多く、悪いことは起こらないとき」「誰もが優しい気持ちで過ごせるとき」だと勝手に思い込んでいました。でも自然に、特に地震には正月も何もないわけなので、幻想だということを知りました。たくさんの方が被害に遭われ、避難生活を余儀なくされています。お亡くなりになった方のご冥福と安否がわからない方の無事をお祈りします。

さて、話を松ヶ丘のことに戻します。

1月3日には毎年恒例の「新春マラソン大会」が、松ヶ丘中学校のグラウンドで行われました。松ヶ丘中学区に住む児童生徒約200人が健脚を競いました。

私は他校の校長と共に来賓席に座り、走る子どもたちを応援していました。長い時間座っていたため寒さを覚え、立ち上がり身体を動かしました。その日の私の服装はジャージ姿。マラソン大会を運営する育成委員の目には、ジャージ姿で準備体操をする私が「走る気満々に映ったようで、「ぜひ、低学年の部で走ってください。」と声がかかりました。他校の校長はスーツでの観戦。ジャージは私だけ。えっ、逃げられない？声もかかったことだし、走るか。距離も800mだし、余裕だろう。低学年だからペースもゆっくりだろうし。

しかし、私の考えは甘かった。低学年の児童のスピードを甘く見ていました。スタートし

ですぐに置いていかれ、ついて行くのが精一杯。3周目にはへとへとになり、早く終わることだけを考えて走り続けました。断ればよかったという後悔と自分の体力の衰えへの落胆と体力づくりが大切だという思いを持ちながら、なんとかゴールしました。

来年は、他校の校長と距離を分担し、タスキをリレーする駅伝方式で出場したいと思います。（勝手に私が思っているだけで、実現するとは限りません。）